

〔科目名〕 国際金融論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目
〔担当者〕 中條 誠一 Seiichi Nakajo	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 国際金融の基礎理論を踏まえて、実際に国際金融の業務がどのように行われているかという基本的な実務と現代の世界経済が直面している現実の問題を理解するための授業である。したがって、講義は国際金融の理論、実務、現実問題の3部構成から成っているが、いずれも初学者でも理解できるような分かりやすいものとする。 特に、他の国際金融論の授業と異なるのは、最先端の国際金融の実務を取り上げ、平易にその仕組みを解説することによって、受講者が実際に活用できるような「現実に関与する国際金融論」となっている点である。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 現代の世界経済は、グローバル金融資本主義などと呼ばれるように、物やサービスの取引に必要な額を上回る資金がうごめき、たびたび国際金融における混乱が危機を発生させている。その影響は、われわれの日常生活にも及んでおり、国際金融の重要性が高まっている。 そうした中では、グローバルな世界を舞台にした国際金融取引の原理や実態、それがもたらす混乱や危機を把握することが、国際人を目指す学生はもとより、国内ビジネスに従事する場合にも、一般常識として不可欠となっている。グローバル社会を生き抜くうえで必要不可欠な知識として、この講義を活用して欲しい。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 (1) 国際金融の基礎理論全般を理解すること (2) 理論と現実の相違を明確に理解することによって、実際のビジネスにおいて、国際金融の理論をどのように活用すれば収益を得られるかを理解すること (3) 現実に関連している国際金融問題について、理論を踏まえた理解ができること 具体的には、国際金融の理論、実務、現実問題のそれぞれに関する新聞や雑誌などの記事をスムーズに理解できるようにすること。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 過去の授業評価で、講義が聞き取りにくかったとの声が聞かれた。そこで、毎年受講生に私語を慎むように注意を促すとともに、大きく明瞭な発声を心掛けた。その結果、もともと平易な講義内容のものが聞き取りやすくなり、分かりやすいとの評価を得たので、今年度も継続したい。 オフィスアワーを設定することが難しいので、授業を極力双方向方式にし、そこで質問や相談も受け付けていきたい。		
〔教科書〕 中條誠一『新版・現代の国際金融を学ぶ』勁草書房		
〔指定図書〕 レポート提出課題本: 中條誠一『ドル・人民元・リブラー通貨でわかる世界経済』新潮新書		
〔参考書〕 藤田・上川『現代の国際金融論』有斐閣		
〔前提科目〕		

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 基本的には、期末テスト（100 点満点）によって評価する。 ただし、授業は双方向方式を取り入れて行うため、適切な質問や回答に対しては加点する。 さらに、授業参加および貢献点、レポートの点数を加点する。 加点部分の配点は、授業の開始時に提示する。 なお、履修者が少ない場合には、期末テストを行わず、レポートなどで評価することもあり得る。	
〔評価の基準及びスケール〕 メインとなる期末テストは、授業中に対象となる複数のテーマを指摘し、かつそのテーマについてのポイントを明確に講義する。計算問題については、授業中にも、簡単な例題を出して、練習してもらいたい。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ともすれば、国際金融論は理論と実務や現実が乖離しており、分かり難いとか、実際に役立たないという声を多く聞く。その溝を埋め、実際に日常生活で使うことができ、役立つ国際金融論の講義にしたい。 そのために、たえず理論を実務や現実問題と関連付けながら講義をするので、受講生は新聞、雑誌、TVなどを通じて、国際金融に関わる動きをウオッチし、問題意識を持つように心がけてもらいたい。	
〔実務経歴〕 総合商社での国際的な金融業務の経験を活かし、為替レート予想、国際資金調達や運用の仕方などを授業に取り入りたい。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか):国際収支の仕組み 内 容: 国際的にどんな取引がなされているのかを国際収支表から見てみる 教科書・指定図書 :指定の教科書、関連資料を配布
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):為替レートの国際収支調整機能 内 容:為替レートによって、どうすれば国際収支は調整できるのか、現実にはどうかを見てみる 教科書・指定図書:指定の教科書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):国民経済と国際収支 内 容:経済全体から国際収支を見るI－Sバランス論とその現実的意義を考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):購買力平価説 内 容:伝統的な為替レート決定理論とその現実的意義を見てみる 教科書・指定図書:指定の教科書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):アセット・アプローチ理論 内 容:新しい為替レート決定理論とそれによって為替レートをどう予測すればよいかを考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):金利平価説と金利裁定取引 内 容:金利平価の成立メカニズムと現実的に利益を得るための方法を理解する 教科書・指定図書:指定の教科書

第7回	テーマ(何を学ぶか):国際金融市場とその機能 内 容:国際金融市場の概要とその機能について考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第8回	テーマ(何を学ぶか):先物取引 内 容:デリバティブ取引のひとつである先物取引の仕組みを知り、どのように使えばよいかを考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第9回	テーマ(何を学ぶか):通貨オプション 内 容:デリバティブ取引のひとつである通貨オプションの仕組みと使用の仕方を考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第10回	テーマ(何を学ぶか):通貨スワップ 内 容:デリバティブ取引のひとつである通貨スワップの仕組みと使用方法を考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第11回	テーマ(何を学ぶか):基軸通貨・ドルとアメリカの「法外な特権」 内 容:世界の基軸通貨であるドルを発行することでアメリカが得ている特権と問題を考える 教科書・指定図書:配布資料
第12回	テーマ(何を学ぶか):通貨統合とユーロ危機 内 容:通貨を統合するとはどういうことかとユーロ危機の原因と対応について見てみる 教科書・指定図書:指定の教科書、配布資料
第13回	テーマ(何を学ぶか):黄昏の通貨・円は、再び輝きを取り戻せるか 内 容:円安の効果を正しく評価し、そのメリットを日本経済の再生につなげる方法を探る。 教科書・指定図書:配布資料
第14回	テーマ(何を学ぶか):お金(通貨)とは何か 内 容:今、新しい通貨として、デジタル通貨が注目されている。国際金融にも大きな影響を与えると思われるデジタル通貨を理解するために、そもそも「通貨」とは何かを考えてみる 受講者が最初の授業において、指定の教科書を持参できなかった場合、第14回と第15回を先に講義することにする。 教科書・指定図書:配布資料
第15回	テーマ(何を学ぶか):「未来の通貨」(デジタル通貨)とは？ 内 容:未来の新しい通貨はどのようなものか。私たちの生活はどう変わるのかを考えてみる。 教科書・指定図書:配布資料
試験	